

講義録

男性から見た「ワークライフバランス」：
日本と他国男性の意識調査から分かったこと

奥村 キャサリン

Work-Life Balance: A Male Perspective

(findings from a survey of attitudes among Japanese and non-Japanese men)

OKUMURA Kathy

神戸女学院大学 文学部 英文学科 准教授

連絡先：奥村キャサリン 〒662-8505 西宮市岡田山4-1 神戸女学院大学文学部英文学科
okumura@mail.kobe-c.ac.jp

女性学セミナー「男性から見た『ワークライフバランス』

：日本と他国男性の意識調査から分かったこと」

2015年5月22日(金)

神戸女学院大学 ジュリア・ダッドレー記念館104教室

○奥村 皆さん、こんにちは。本日は貴重な時間をいただきまして、本当にありがとうございます。私は奥村キャサリンと申します。名前から見て日本人ではないのかわかるとは思いますが、オーストラリアから来まして、今、16年間ほど日本に住んでいます。そのうちの3年間は神戸に住んでいます。このような機会はほとんどなくて少し緊張していますが、どうぞよろしく願いいたします。

自己紹介ですが、オーストラリアから来て、日本では、ほとんど通訳と翻訳の仕事をしてきました。今も通訳の仕事をしております。神戸女学院で通訳のコースを担当する傍ら、通訳と翻訳の仕事もさせていただいております。

今回は、私が実施した調査、男性の目から見たワーク・ライフ・バランスについて話をさせていただくんですが、私はもともと学者や研究者といったタイプではないのでかなり初歩的な研究にはなっていますが、いろいろとおもしろい発見がありましたので、きょうは少し御紹介させていただければと思います。

本日の内容ですが、まず、ワーク・ライフ・バランスとはについて話をします。次は、なぜ今注目されているのかです。その次は、日本の現状について少しお話をしたいと思います。4番目として、私が実施しております男性の意識調査の背景と結果について話をし、最後は将来に向けて、できれば皆さんの御意見、御質問、コメントをいただければと考えております。

まず、ワーク・ライフ・バランスです。最近話題になっておりまして、「仕事と生活の調和」とよく訳されています。このような説明はよく聞きますが、仕事と家庭を両立させるだけではなくて、どうやって両者とも充実させることができるかが注目されています。両立させようと努力している人はかなりたく

さんいると思いますが、さらにどちらも充実させることができるかどうかが問題だと思いますので、そのところに注目しています。

いろんな視点がありますが、まず日本政府からの視点です。日本政府としては、少子化問題が大変大きな問題になっておりまして、労働人口が減少、つまり働き手が足りないという問題が起きています。その対応として、いかにして女性が働きやすい環境を作れるかというのが、解決策の1つとして考えられています。

企業目から見ますと、グローバル化が進んでいて、年中無休でなくても、かなり不規則な労働時間、労働スタイルが求められています。労働環境が大きく変化してきています。そうしますと、いろんな働き方に対応しないといけない企業が出てきます。そういった多様化に対応する意味でも、自分の会社の社員が、ワーク・ライフ・バランスをうまくとれるほうが、会社にとっても良い成果につながるということが分かってきています。

まず、日本の現状について、主には2つの調査から出たデータを御紹介したいと思います。

まず1つ目が2008年の調査ですが、内閣府が実施したもので「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する意識調査」。まずこれについて話をしまして、その後、日本政府が提出した平成25年の白書を説明したいと思います。

2008年の調査の結果を、まず紹介したいと思います。希望と現実の不一致が、この調査の結果の大きなテーマとなっています。幾つかの調査中の質問を紹介したいと思います。

まず、生活における仕事、家庭生活、地域・個人の優先度についての質問があります。まず、希望として仕事を優先したいと言っている人は2%にすぎない。でも、現実としては仕事を優先せざるを得ない状況に置かれている方が50%になっています。仕事の面ではこれが、希望と現実の大きなギャップになっています。

次に性別ごとに見てみます。先ほどは全体の結果でしたが、男性の結果だけ

を見ましても、大きなギャップがあるのがわかっていただけるかと思います。仕事を希望したい、優先したいと答えている男性が3.2%、実際に仕事を最優先にせざるを得ないと答えている男性が62.2%、かなり大きなギャップがあります。

女性についても仕事を優先したいと答えている人が0.9%。でも、実際に仕事をしている女性が34.8%。これも大きなギャップになっているのがわかるかと思います。

次は家庭です。男性の回答ですが、家庭を優先したい、最優先にしたいと答えている男性が18.7%。でも、現実としては8.5%しか優先出来ていない状況です。

女性も、家庭を優先したいが18.3%、男性とほぼ同じレベルになってます。現実としては、家庭を優先している女性は30.2%。男性と比べると、男性は8.5%でしたので、当然といえば当然ですが、女性のほうが家庭を優先しています。

同じ調査の中で、自分のワーク・ライフ・バランスについて聞く質問がありました。自分のワーク・ライフ・バランスをどう評価するかですが、全体としては100点満点で平均51.2点でした。男性が48.7点、女性が53.7点、女性のほうが若干高い数値になっています。この下は年代別になっていますが、20代、30代、40代、50代、この中では30代が一番満足度が低い、つまり、ワーク・ライフ・バランス度が低い。自己評価ですが、こういう結果になっています。

この調査の結果をまとめますと、まず、家庭優先を希望する人は男女でほぼ変わらない。男性でも女性でも18%ぐらいになっています。正直、少し驚きました。女性はもう少し高いかなと思いましたが、男性と全く同じレベルになっています。現実的には、女性の30%、男性の8%が家庭を優先している、という結果です。これは、自分の周りを見ると、かなり明らかじゃないかと思っています。

仕事においても、希望と現実の間に、特に男性において大きな乖離があるのがわかっていただけるかと思います。

ワーク・ライフ・バランス度では、男性と比べて女性のほうが、ワーク・ライフ・バランス度が高いという結果になりました。

同じ調査で、ワーク・ライフ・バランスはこういう状況になっているのですが、どのような取り組みが必要かという質問もありました。ここに書いてありますのは、最も多い回答者が選んだ答えです。まず企業に求められているのは、社長、取締役、つまりトップがリーダーシップを発揮して、ワーク・ライフ・バランスに取り組むことを一番多くの人が求めています。

次は、無駄な業務、無駄な作業をなくすこと。企業で勤めたことがある方はよくわかると思いますが、まだまだ無駄な作業がたくさん求められている状況だと思います。企業によって違いますが。

最後は、管理職の意識改革を行う。つまり、トップの意識だけではなくて、管理職ですとか、部長、課長、係長など、そのような方々の意識改革がないと、問題を解決できないと考えている人が多いようです。

次は政府に求められていることですが、回答者が答えたトップ3の回答です。まず、保育所など子育て支援を拡充すること。大きな社会問題になっていますが、保育所がなかなか足りない。待機児童が多いのが大きな問題になっているのが、この背景にあると思います。

次は、ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化すること。最後はワーク・ライフ・バランスの重要性についてPRすることが、政府に求められている取り組みです。

同じ調査で、もう一つの質問は、ワーク・ライフ・バランスのために努力しているかという質問です。努力していると言っている人が約2割。努力していない人が約4割です。努力していると答えた人の行動としては、自分の趣味の時間をとるが71%、効率よく仕事をするが67%、仕事を段取りよくすることが55.4%でした。

これを見て、努力していない人が4割というのは割と多いと思うのですが、いろいろ理由を考えると、恐らく余りにも忙しくて、そんな余裕がない人が多いのではないかと思います。また、ワーク・ライフ・バランスのために努

力することは、今の現状を変えることになりますので、変えるためには他人の協力が必要になります。例えば家庭の状況を変えようと思ったら、夫の協力が必要になったり、そして仕事では、同僚ですとか上司に協力を求めないといけない。そのようなことでトラブルになったりすることを心配している人が多いのではないかと思います。

日本の現状ですが、企業では、実はいろいろとワーク・ライフ・バランスの取り組みがふえてきていると思います。少しだけ紹介しようと思います。

まず、広島に本社があるマツダ株式会社。マツダではワーク・ライフ・バランスの促進をやっています、これは人事本部の中でチームが設置されていたと思います。

育児休暇をとった人へのインタビューですとか、育児休暇をとっている女性や男性の人数、育児休暇、育児休職、介護休職などいろいろと制度があるのですが、そのうち女性と男性の数値、統計がこういうふうに入っています。インタビューは非常に効果的だと思います。育児休職、育児休暇をとったことで、自分にとってどのような効果があったのかを共有しているのです。

私は授業でよく学生に言うのですが、3回生、4回生になると就活真っ最中で、いろんな企業を見るわけですが、このような制度のある企業を探してほしいなと思います。あるかないかで大きな差になります。仕事にはかなり多くの時間を使わないといけない、一日のほとんどは職場にいるわけですので、その環境はかなり大事だと思います。このような企業を探していただきたいなと思います。

また、これは東京都が実施している取り組みですが、ワーク・ライフ・バランス認定企業というのをやっています、例えば長時間労働削減取組部門ですとか、賞みたいなのを設けています。認定された企業の評判もよくなりますし、いろんな効果が考えられると思います。こうやってどのような取り組みをしているのか、ここで見るができますので、これも就活をしている学生にとっては非常にいい情報だと思います。

もう一つ。株式会社ワーク・ライフバランスという企業があります。この方

が小室淑恵さんですが、彼女は国会をはじめいろんなところでプレゼンされていますが、いくつかの企業のコンサルタントをしています。

彼女が主張しているのは、日本人が世界で1番長時間労働が多いということです。週60時間以上働く人が世界でトップになっていますので、それをやめないとなかなかワーク・ライフ・バランスはとれない。それでは少子化問題も解決できないというのが、彼女が主張しているところなんです。講演したり、いろんなデータ、情報を集めたりしておられます。非常に盛りだくさんの情報が載っていますし、いい取り組みだと思います。

もう一つ。皆さん、御存じでしょうか、イクメンプロジェクト。日本政府のプロジェクトで、イクメンをふやそうとしているということです。後ほど、私の実施した調査の結果を紹介しますが、イクメンのイメージについて少しおもしろい結果がありましたので、後ほど話をしたいと思います。

まとめますと、このように社会インフラや企業では、いろいろと取り組みが進んでいますが、家庭ではどうなのかという疑問を持ち、私が調査を実施しました。

その調査のきっかけですが、私も日本人男性と結婚していて、子供が1人、6歳の息子がいるんです。私も主婦として経験がありますし、いろんなお母さんたちと話をする機会が今でもたくさんあります。その中で、主婦の悲鳴、愚痴はたくさん聞きます。何とかできないかと思って、男性側はどう考えているのか、男性の声はそれほどよくメディアとかで報道されていない気がして調査をしてみました。

水曜日にNHKの「あさイチ」という番組があったんです。そこでスーパー主婦の話が出ていました。その内容としては、すっきり片づけとか、家族の協力とか、スーパー主婦のわがが紹介されていました、それが番組の趣旨だったのです。「あさイチ」という番組は生放送ですが、視聴者からツイッターとか、いろんなメッセージが送られてきます。メッセージの内容を見ると、ほとんど夫の愚痴ばかりだったんですよ。何もやらない、何もしない、何でしないのか、私から言わないと何もしない、頼まれてないよとか、そういうことばかり言っ

ている夫の話ばかりだった。その番組にかぎらず、女性たちが集まるとそういう話題が多いので、問題があるのかなと思ったりして。それで、男性はどう考えてるのかなと思って。

私の調査は後ほど説明しますが、まず家族の状況について、もう少し背景を紹介したいと思います。

これが平成25年度に日本政府が実施したもので、国会に提出された白書です。日本政府の方針としましては、男女共同参画社会をつくるのが1つ取り上げられています。その関連でこの白書を提出しています。かなり多くの情報が入ってまして、大変おもしろい情報ばかりなので、もしチャンスがあればごらんになってください。インターネットですぐ見つかります。

その調査から、白書で書かれている内容を簡単にまとめます。

まず、世帯構造の変化。皆様も、周りを見たらわかるようなことですが、まず共働き世帯数が、いわゆる男性雇用者と無業の専業主婦から成る家族よりも多くなっているのが1つのポイントです。平成9年度からそういう傾向になっています。つまり、昔と比べたら多くの女性が働いているということです。

2点目。夫婦と子供から成る世帯、また3世代の世帯が減少しているということです。

もう一つ、独身世帯の増加。今後とも増加が続く見込みです。詳細は書いていないのですが、今、結婚の利点がわからなくなっていると答えている人が多いようです。特に若い男性でその傾向が見られています。若い女性では、まだまだ結婚をしたい、子供が欲しいと言っている人が多いようですが、男性としては、どういう利点があるのか、その魅力がわからないと言う人が多いそうです。女性が結婚したくても、男性が結婚しなくなったら当然成立しないので、独身世帯が増加しています。

ここから言えることは、このように世帯構造が多様化することで、いわゆる普通の家庭が少なくなってきたということです。普通がなくなり、多様化しているわけです。

次は仕事について、昔と比べたら多くの女性が仕事をしています。仕事をし

ている男女の割合が低下しているのは、恐らく高齢化と関連していると思いますが、1日平均仕事時間が伸びているという結果になっています。平成23年度の結果ですが、1日平均労働時間は、男性で536分、女性が390分になっていますが、依然として男性のほうが労働時間が長くなっています。

家事、私が注目しているところです。家事をしている男性が増加しているようです。昔と比べたら多くなっているようですが、しかしながら実際に家事をやっている時間自体は変わっていないということです。女性のほうが家事関連時間が増加していると。考えてみたら多くの女性が仕事をして、同時に家事の時間もふえているので、かなり大変な状況になっているのがわかっていただけるかと思います。

ほかの国々の男性女性と比較して見ると残念な結果になっています。グレーの部分が家事のうちの育児関連の時間です。男性で、週平均で家事全般に1時間。そのうちの33分が育児。女性が週平均で7時間ぐらいで、そのうち育児の時間が3時間ぐらい。かなり大きな差があることがわかっていただけるかとは思いますが。こうやって国際的に比較してみると、日本人男性が家事・育児に費やしている時間はかなり少ないのがわかると思います。これは、それほど新しい話ではありません。

これが日本の現状ですが、女性を1とした場合の数値になっています。

右側をごらんいただきたいのですが、仕事の時間を見ますと、男性が1.37になっているということは、女性が1ですので、男性のほうが仕事の時間が多いのがわかると思います。それと比べて、家事が0.4になっているので、かなり男性のほうが家事の時間が少ない。介護は女性、男性、ほぼ一緒になっています。介護、看護がそうですね。

育児は男性が0.86。これを見て少し驚いたのですが、買い物は、男性のほうが時間が長くなっています。週の平均買い物時間が、女性よりも男性のほうが多くなってしまっていて、少し私は意外でした。どのようなお買い物をされているのかなと思って。うちの旦那だったらオートバックスに行ってしまうのですが、それを家事の買い物とは呼びたくないですが。

次は、男性の育児休業取得率です。増加はしています。しかし、依然としてかなり低いです。1.89になっています。育児休業制度があったとしても、ほとんどの人がそれを使っていない。

この前、テレビのニュースで見たんですが、滋賀県大津市で、大津市の職員が義務として、男性職員が育児休業、育児休暇をとらないといけないという新しいルールを実施しているようです。そのルールについて、滋賀県大津市で街頭インタビューをいろいろしていましたが、賛否両論ありました。無理やりさせるのはどうかと言う人もいました。

これが育児休業取得率です。少し古いデータですが、ピンクが女性のデータです。ほとんど見えない線、0.42となっているところが男性です。こうやって目標値を政府が出していて、男性の育児休業取得率を2008年度に23%にと、かなり野心的な目標になっているのです。今、2015年なのに1.89%ですから、この目標は全く達成されていません。

同じ白書から、子育てのために仕事をやめる人は、依然として女性のほうが多いことがわかります。これは驚くようなデータではありません。イクメンプロジェクトは先ほども言いましたが、企業もいろいろとサポートしようとしています。

NPO ファザーリング・ジャパンという団体があります。イクメンだけではなくて、イクボスという言葉を御存じでしょうか。大体想像はできると思いますが、イクボスプロジェクトというのがあります。つまり、部下とか一般社員が育児をするために休もうと思っても、その上の管理職が理解してくれないとなかなかできない。部下だけではなくて、管理職、その上の企業のトップも実際にやらないとだめだという意識改革になっているようです。そのための取り組みです。

同じ白書、調査ですが、幸福度についていろいろ質問がありました。これもなかなかおもしろかったのですが、まず、現在幸せであると答えている女性は、男性よりは多い結果になりました。職業状態別で見ると、女性の主婦は、男性の主夫よりは幸福度が高い。かなり大きな差になっています。女性の専業主婦

が43.6%、男性の主夫、イクメンが21%になっています。

私の研究の一環として、日本で仕事をやめて、フルタイムで育児をしている男性のインタビューをしてみました。2人とも日本に住む外国人の男性です。1人は主夫の仕事が大変過ぎて鬱病になり、あまり話もできませんでした。もう一人はアメリカ人の男性で、彼の奥さんは製薬会社で管理職をされているのですが、彼は仕事をやめて、子供3人の面倒をフルタイムで見えています。

彼といろいろ話をすると、この生活が大好きで、天国だと言っていました。こうやって毎日子供たちとかかわることができて、非常に幸せだと言っていました。ただ、周りの目を少し気にするとも言っていました。彼は須磨に住んでいます、毎日買い物に歩いて行きます。小さなお店のおばあさんが、毎日不思議そうに見ていたと言っていました。ある日、そのお店に寄って、入って何か買おうとしたら、そのおばあさんは「あんた、何してるの」と聞いてくるので、「仕事はしていない」と言ったら「だめだめ」と言われて、仕事をしない男性は全然だめだと言われてかなり恥ずかしかったと言っていました。でも、それは別として毎日充実していると彼は言っていました。

2つの例から見ると、男性の主夫にも、女性の専業主婦、主婦と同じように個人差がかなりあって、向き不向きがあると思います。

次は幸福度です。配偶者の状態別では、妻が自営業主もしくは家業事業者の場合は、夫の幸福度が最も高いです。しかし、妻が主婦の場合、妻自身の幸福度はかなり高いのですが、夫の幸福度が低いのがおもしろいと思いました。ちょっとアンマッチしているなどと思いました。

次は、私が実施した調査を紹介したいと思います。もともと学者ではないので、初歩的ではありますが、いろんな方と話ができて、いろいろと新しい発見がありましたので少し紹介したいと思います。

この調査は始めたばかりで、これから継続して、もっともっと多くのデータをとろうと思います。

まず、この調査の目的ですが、女性といろいろ話をする中で、様々な不平不満が聞かれるので、相手側の男性はどういうふう考えているのかを聞こうと

思って、この調査を実施しました。

調査の目的は、家事と育児、社会的インフラ、また社会的認識についてです。対象は共働き世帯の男性、日本人と他国男性を対象にしています。時期は、4月から始めて今も継続しています。まだデータは少ないです、40人ぐらいしかデータをとれてないですが、これから多くの方からデータをとって、よりいい結果にしようかなと思っています。

日本人、30歳から60歳で、いろんな方が答えてくれています。教員、専門職、自営業、営業、マーケティングとか生産、建設の人です。他国の回答者も同じ年齢で、職業はこうなっていますが、いろんな国の方が答えてくれています。イギリス、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、スウェーデン、アイルランド、オーストリアとフランスです。

まず聞いていますのは、家事への参加度です。項目としては、掃除関連の家事、食事関連の家事、家計管理関連の家事ですとか育児関連について、主に自分がやっている、平等に分担している、または主に配偶者がやっている、のどれにあたるかを聞いています。

その結果、男性が最もよくやっている家事は、ほぼ変わらないです。日本人も外国人もごみ出し、家の修繕や害虫の駆除などは男性が担っており、日本人の場合は整理整頓にも参加しているという結果です。

男性が余りやっていない家事として、日本人は、掃除機、洗濯、アイロンがけ、そして料理となっています。これらは最も参加率の少ないものです。外国人男性が余りやっていない家事としては、整理整頓、洗濯、洗濯物を干すとか、衣類の片づけ、そして買い物などがあります。

次は育児です。男性がよくやっている育児は、これもほぼ同じ結果になっていますが、トップのものを選べますと、学校の子供の発表会への参加や、お風呂、日本人では宿題の手伝いや子供の世話。例えば、自分が仕事をしてない時に子供の面倒を見るとか、そのようなものです。外国人と違うのは、習い事への送迎もよくやっていると回答されている点です。また本の読み聞かせ。

男性がやっていない家事は、日本人も外国人も一緒でした。学校への連絡、

保育園や学校との日常連絡ですとか、通学かばんの用意、衣類の購入。ある回答者は、自分の子供のサイズがわからないとか。あとはヘルパーさんの手配など。これらにおいては、日本人と外国人の男性の間に差はほとんどありませんでした。

先ほどの質問は、実際にやっているかどうかという質問でしたが、これからは回答者の気持ちについて聞きました。

まず、家事について。実際に行っているかどうか、行う時間があるかどうかは別として、自分が行うことについての気持ちに一番近いものを選んでくださいという質問です。回答の選択肢は、「男性の自分が行うことに抵抗はない」、「男性の自分が行うことには少し抵抗がある」、「男性がやることには抵抗がある、女性の役割である」という3つです。

まず家事ですが、男性として少し抵抗がある、もしくは抵抗があると回答されたトップ3は、アイロンがけ、洗濯関係、そして料理、夕食。実は日本人の回答を見ますと、この数値はかなり低く、22%か20%になってます。ほとんどの日本人男性はこれらの家事をすることに抵抗がないと答えていました、あらゆる家事業務のリストに対して、ほとんどの人は抵抗はないと答えたのですが、回答者の22%が、例えばアイロンがけには少し抵抗があると答えました。それらの結果と比べると、外国人男性のほうが、抵抗がある、少し抵抗があると答えている人の割合が多かったのです。

日本人男性でも、外国人男性でも、この3つが抵抗を感じるトップ3になっていますが、外国人男性のほうが抵抗を感じている人が多いのに、私は少し驚きました。この結果をどう解釈すればいいのかわからないですが、そういう結果になっています。

次は育児です。育児も同じような傾向になっています。トップ3で抵抗のあるものを選びますと、学校との連絡、衣類の購入、そして病気の子供の看病のために休むのが、少し抵抗があるもののトップ3です。これらの育児活動に抵抗を感じる男性の数は、日本人よりも外国人のほうが多いです。外国人の回答者の73%が、学校との連絡を自分がするのは少し抵抗がある、もしくは抵抗が

あると答えています。日本人は26%だけで少ないです。同じように衣類の購入についても、抵抗を感じる外国人男性が60%なのに対して、日本人男性はたったの26%の人しか抵抗を感じていない。病気の子供の看病のために休むもそうですが、外国人が日本人のほぼ倍ぐらいになっています。

次は、幾つかの質問をしてみました。

女性が家庭を守り男性が外で働くという伝統的なモデルについて、それに賛成する、つまり全く違和感を感じないと答えた人が、日本人では11%なのに対して外国人では20%と高いです。逆に言えば、反対つまり、このような家族モデルは不公平で古いと考えている人の割合は、日本人は32%なのに対し、外国人は60%。外国人男性の回答がかなり両極端にわかれていることがわかると思います。

次は、「賛成だが経済的に厳しい」。つまり、自分の収入だけでは厳しいと答えている人が、日本人では21%、外国人は少なくとも7%。その他としては、個人の選択だと答えている人が、日本人は多くて36%、外国人はかなり少ない13%。ほかの質問でも傾向として見えるのですが、日本人の男性は、個人の問題つまり、人それぞれだと答えている人が割と多かったです。

次は、専業主婦について聞いてみました。回答の選択肢は、①賛成、家族のことに集中できるのでいいと思うが、賛成。反対は、男性1人に収入を頼るので、男性は大変だと思う。どちらとも言えない、つまり個人の選択の問題であると。

この質問でも同じ傾向として、日本人は74%が個人の問題ではないかと答えています。これに比べて外国人は、専業主婦に賛同している人が日本人よりもかなり多く、27%にもなっています。反対も外国人が多いです。

次は、男性の主夫について聞いてみました。子育てのために仕事をやめる男性について。これは複数回答可能な質問だったのですが、ここで外国人と日本人で差が開いた選択肢は「仕事が充実しているので、自分は主夫にはならない」というところですね。日本人は42%、外国人は20%という結果になっています。

最後は、自分のワーク・ライフ・バランスについてです。満足している人が、日本人が21%で多く、もっと家族と時間が欲しいと言っている男性の割合は、外国人のほうが高いですね。逆にもう少し仕事の時間が欲しいと答えた割合も、外国人の方が多かったです。

これからは、この調査で今までにいただいているコメントを紹介したいと思います。まず全体としましては、ワークシェアリング、同一労働、また同一賃金などが全体的に進めば、日本人ももっとプライベートを充実させられるという意見。専業主婦について、特にどちらとも言えないが、バランスが悪くなってしまう気がする。働けるのであれば、外に出たほうがいいと思うという意見がありました。

実は今朝、息子とおもしろい会話をしましたので紹介します。私は息子のために毎日お弁当をつくっています。いつも急いでいますので、かなり手を抜いています。最近、文句が出てきています。当然ながら、ほかの子供たちのお弁当と比較して、誰々のママがこれをつくれるのに、何でママはそれができないのとか聞くので、その子のママは仕事しているのかと聞いたら、してないねと、だからだねって。息子は、女性は仕事をしたほうがいいと思うねと言って、理由を聞いても答えられないのですが、今から意識しているということにびっくりしました。しかし、お弁当問題はこれからもなくなるので、何とかしないとイケないなと思っています。

主夫について、男性の主夫。保育園でも子供は社会を学ぶので、家族全員が昼間はそれぞれの社会生活を送っているのがいいという意見や、女性のほうが家事に向いているというコメントをいただきました。女性のほうが家事に向いているというのは、回答を見ても、そのような意見が結構出てきました。

例えば、衣類の購入について、僕はサイズがわからないとか、僕は洋服を選ぶ自信がない、料理ができない、これは私には難しいとか、そのようなコメントが結構ありました。

女性は家庭にいて、男性が外で働く概念について、日本人からのコメントとしては、次のようなものがありました。

- ・女性も仕事を通じて社会につながっていくほうが健全
- ・各家庭いろいろ事情や考え方もあるので何とも言えない
- ・個々の価値観の問題であり、家庭内で協調できればいい

など。

この最後の意見は結構出ていまして、特に日本人では、個人の問題じゃないかということですね。また、賛否ではなく、従来の家庭モデルは高度経済成長などとリンクしている大前提を考えると、もはやあり得ないと答えている方もいました。

次は、外国人からのコメントです。女性と男性の役割分担の概念について、理想ではないが、魅力的だと思う。父の世代がうらやましいと答えている外国人男性がいました。また、各家庭の状況によるとか、専業主婦については、女性が自分のキャリアを築けないのはよくないとか、そのようなコメントが出ていました。さらに聞いていきたいと思いますので、これからも調査を継続すると同時に、インタビューもしたいと考えています。

もう少し、男性の主夫についてのコメントをいくつか紹介します。

- ・男性も主夫という選択肢を自由に選べるようにならないといけない
- ・家庭として十分な収入を得られるかがポイント
- ・勇敢で立派な選択だが、イメージが嫌なので自分はしない

これは結構、男性から聞かれます。

私の主人の実家は滋賀県です。滋賀県の方、いらっしゃいますか。いないですね。滋賀県は少し保守的な方が多いんじゃないかなと思いますので、特に私の夫の実家の周りはかなり、田舎でもなく、草津市という割と大きな町ですが、私がずっと仕事をしていて、例えば出張とかをすると少し白い目で見られる場合もあります。

最後に、私の調査はかなり限定的で、1つこれから頑張らないといけないところですが、私が集めたデータは、男性の回答者は、教育レベルや収入の面で比較的高い方ばかりでした。今後はもう少し幅広くデータを集めることが重要だと思います。

それと、男性の意見はいろいろわかったのですが、それと同じことに対して、女性はどう考えているのかを比較しないとだめですから、今後は女性の意識との比較もしていこうかなと思っています。

この調査の結果から、男性は社会的変化を受け入れている、家事、育児にもっと参加すべきだという認識を持っているようです。また、日本人男性、外国人男性の間に、意識の面での差が結果として出ている。先ほどお見せしましたように、外国人の男性よりも日本人男性のほうが、家事をする用意ができていような結果になりました。つまり、家事をやってもいいですよ、抵抗は感じていないですよ、というような結果が出ました。

皆様の意見も聞かせていただければと思います。これからも引き続き調査をして、もっともっとデータを集めて、そして男性の声を集めて、女性の意識と比較していきたいと考えています。

以上、私のほうから、いろんな調査の結果を紹介しましたが、もし御質問、またコメント、何でも結構ですので何かありましたら、ぜひお願いしたいと思います。

ありがとうございます。

男性から見た
「ワークライフバランス」：
日本と他国男性の意識調査から
分かったこと

資料キョウエン
2015年9月22日

講演内容

- ①ワークライフバランスとは
- ②なぜ今注目されているのか
- ③ワークライフバランス：日本の現状
- ④男性の意識調査の結果
- ⑤将来に向けて

①ワークライフバランスとは

- ・「仕事と生活の調和」
- ・「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年齢といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる」
- ・「仕事」と「家庭」を両立させるだけでなく、いかにして両者とも充実できるか

②なぜ今注目されているのか？

- ・政府の視点：少子化問題への対応
- ・企業の視点：グローバル化に伴い、年中無休での対応が求められ、労働スタイルが多様化

③ワークライフバランス：日本の現状

- ・仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する意識調査（2008年、内閣府）
- ・「平成25年度男女共同参画社会の形成の状況」（白書、第186回国会（常会）提出）

③日本の現状：希望と現実の不一致

Q: 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について

- ・希望：「仕事」優先：2%
- ・現実：「仕事」優先：50%

③日本の現状：希望と現実の不一致

Q: 「仕事」について（男性）

- ・希望：「仕事」優先：3.2%
- ・現実：「仕事」優先：62.2%

③日本の現状：希望と現実の不一致

Q: 「仕事」について（女性）

- ・希望：「仕事」優先：0.9%
- ・現実：「仕事」優先：34.8%

③日本の現状：希望と現実の不一致

Q: 「家庭」について（男性）

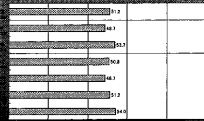
- ・希望：「家庭」優先：18.7%
- ・現実：「家庭」優先：8.5%

③日本の現状：希望と現実の不一致

Q: 「家庭」について（女性）

- ・希望：「家庭」優先：18.3%
- ・現実：「家庭」優先：30.2%

③日本の現状
ワークライフバランス度（自己評価）



③日本の現状：希望と現実の不一致

- ・「家庭」優先を希望する人は、男女でほぼ変わらない（およそ18%）
- ・現実には、女性で30%、男性で8%の人が「家庭」優先となっている
- ・仕事においても希望と現実に大きな乖離がある情に男性
- ・ワークライフバランス度では、男性と比べて女性の方がワークライフバランス度が高い

③日本の現状
どのような取組みが必要？

- 企業
- ・社長や取締役がリーダシップを発揮してワークライフバランスに取組む
 - ・無駄な業務・作業をなくす
 - ・管理職の意識改革を行う

③日本の現状
どのような取組みが必要？

政府

- ・保育所など子育て支援を拡充する
- ・ワークライフバランスのための法規制を強化する
- ・ワークライフバランスの重要性についてPRする

③日本の現状

ワークライフバランスのために努力しているか？

- ・ワーク・ライフ・バランスのための努力をしている人：約2割
- ・努力していない人：約4割
- ・ワーク・ライフ・バランスのための努力として、
「自分の趣味の時間をとる」(71.0%)
「効率よく仕事をする」(67.0%)
「仕事の段取りを工夫する」(55.4%)

③日本の現状
企業によるワークライフバランスの取組み

• マツダ株式会社
http://www.mazda.com/ja/csr/csr_sns/our/our_work-life.html

• 平成25年度東京ワークライフバランス認定企業
<http://www.habachi.jp/m2tr/3d/kyo/kyo/qa/1/1/1/1/1/1/>

③日本の現状
企業によるワークライフバランスの取組み

株式会社ワークライフバランス
<http://www.work-life-h.com>

③日本の現状
政府によるワークライフバランスの取組み

イクメンプロジェクト
<http://www.ikumen-project.jp/09en.html>

③日本の現状

このように
社会インフラや企業では色々と
進んでいますが、
家庭はどうでしょうか？

③日本の現状

主婦の心臓（愚痴？）
はよく聞きます～
<http://www.w1.tokai.or.jp/asahi/1/2015/05/20/21.html>



③日本の現状

• 平成25年度男女共同参画社会の形骸の
状況（白書、第186回国会（衆会）提
出）

③日本の現状

1. 世帯構造の変化

平成9年以降、長期き世帯数が男性雇用者と無
業の妻から成る世帯数も上回っている。
夫婦と子どももからなる世帯、3世代の世帯が減少
単独世帯が増加（今後とも増加が速く見込み）

③日本の現状

つまり
世帯構造が多様化してきており、
「普通」の家族が少なくなって
きています。

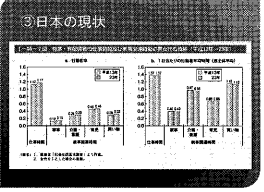
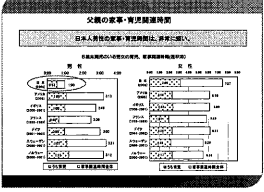
③日本の現状

2. 仕事（男女）（平成13年～23年）

仕事をしている男女の割合が低下
しかし一日平均時間が伸びている。
(23年) 男性：一日平均536分
女性：一日平均390分
※ 会社として男性の方が労働時間が長い。

③日本の現状

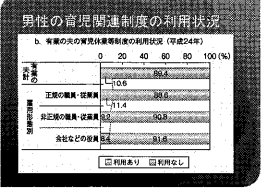
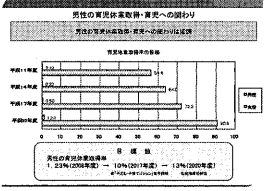
3. 家事 家事、介護、子育て、育児、買い物
家事をしている男性が増加。
しかし男性による家事関連時間が伸びない。
女性による家事関連時間が増加。



③日本の現状

4. 男性の育児休業取得率
増加しているが依然として低い。

1.89%



③日本の現状

5. 子育てのために仕事を辞める人は依然として女性の方が多い

政府や企業によるイクメンサポートが増えている。「イクメン」から「イクボス」への広がり
<http://www.gender.go.jp/public/event/2014/20140606oku/pdf/fatherning.pdf>
<http://fatherning.jp>

③日本の現状

6. 幸福度

- 「子育て中である」と答えている女性も男性より多い
- 「満足度低感」では、主婦は主婦より幸福度が低い(主婦:43.6%、専業主婦:21%)
- 「配偶者満足度」では、専業主婦・専業主婦兼家事の場合に夫の幸福度が最も高い
- しかしながら、「主婦」の場合に、妻の幸福度が最も高いが、夫の幸福度は30.2%と低い

④男性の意識調査

調査の目的

- 共働き世帯の男性の意識から見た「ワークライフバランス」を解く
- 子育て、育児、社会的役割について関心

対象

共働き世帯の男性・日本人、外国人男性

時期

2015年4月～6月

④男性の意識調査の結果

アンケート調査の構成

基本

性別: 男性
職業: 専業主婦、専業主婦兼家事、会社員、学生、自営業
加配の調査
年齢: 30~40歳
職業: 経営、行政、営業、建設、公務員、専業主婦
国籍: イギリス、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、スウェーデン、フィンランド、オーストラリア、フランス

④男性の意識調査の結果

家事への参加度

回答の傾向
「主には自分がやっている」
「平等に分担している」
「主に配偶者がやっている」
項目: 掃除、洗濯、食器洗い、買い物、育児関連、育児関連

④男性の意識調査の結果

最もよくやっている家事

日本人: コミだし、家の掃除、お風呂掃除、洗濯、掃除
外国人: コミだし、家の掃除、お風呂掃除

やっていない家事

日本人: 掃除機かけ、洗濯、アイロンかけ、料理
外国人: 整理整頓、洗濯、洗濯機の手入れ、お風呂掃除、洗い物

④男性の意識調査の結果

最もよくやっている育児

日本人: 学校の授業への参加、お風呂、宿題の手助け、子どもの世話
外国人: 学校の授業への参加、お風呂、遊び場への送迎、車の送迎
やっていない育児:
日本人: 外国人とち: 学校との連絡、通学カバンのお返し、夜間入浴、夜間の入浴

④男性の意識調査の結果

家事参加に対する意識

賛成
「家計に詳しい方がいる。お金の管理が上手い方がいる」として、自分が行うことについての「気持ち」が一番いいものを選んでください
反対の意見
「女性の自分が行うことに抵抗はない」
「女性の自分が行うことに少し抵抗がある」
「自分がやることには抵抗がある。女性の役割である。」

④男性の意識調査の結果

家事参加に対する意識

「少し抵抗がある」、「抵抗がある」
アイロンかけ: 日本人(22%)、外国人(67%)
洗濯関係: 日本人(20%)、外国人(60%)
料理(夕食): 日本人(20%)、外国人(33%)

④男性の意識調査の結果

育児参加に対する意識

「少し抵抗がある」、「抵抗がある」
学校との連絡: 日本人(26%)、外国人(73%)
衣服購入: 日本人(26%)、外国人(60%)
病気の子どもを看病のために休む:
日本人(26%)、外国人(47%)

④男性の意識調査の結果

「女性も家庭において男性が外で働くという従来モデルについて」

賛成: 日本人11%、外国人20%
反対: 日本人32%、外国人60%
賛成だが経済的に難しい: 日本人21%、外国人7%
その他(個人の選択): 日本人36%、外国人13%

④男性の意識調査の結果

「専業主婦について」

賛成: 日本人5%、外国人27%
反対(男性一人に収入を頼るのも良いとは思えない): 日本人11%、外国人20%
どちらとも言えない(本人の意思): 日本人74%、外国人40%

④男性の意識調査の結果

「子育てのために仕事を辞める男性について(主婦に対して)」
賛成: 日本人37%、外国人27%
賛成が子育てに専念しているため自分にはできない: 日本人42%、外国人20%
賛成だが経済的に難しい: 日本人42%、外国人49%
「主夫のイメージが持たれて自分が理解しない」
日本人11%、外国人11%

④男性の意識調査の結果

「自分の現在のワークライフバランスの満足度は?」

「非常に満足」: 日本人21%、外国人13%
「もっと家族との時間がほしい」:
日本人53%、外国人73%
「もう少し仕事の時間がほしい」:
日本人11%、外国人16%

④男性の意識調査の結果

「回答者(日本人)からのコメント」

「ワークライフバランスは、男・専業主婦・専業主婦兼家事が全体的に高い。日本人はワークライフバランスを重視している」といふ意見も多かった。
「専業主婦について」「特にどちらとも言えないバランスが思わなくなってしまっている気がする。他は行けるので専業主婦は行かないと思う」
「専業主婦について」「専業主婦でも子供は社会で学んで、女性も専業主婦はそれ以外の社会生活を送っているというのが多いです」
「女性のほうが家事に向いていると思う」

④ 男性の意識調査の結果

回答者（日本人）からのコメント

- （女性に家庭において男性が外で働く概念について）
- ・「女性も仕事を通じて社会に繋がっていく方が健全だと思います」
 - ・「急ぎ症、いろいろ事情や考え方もあるので何ともいえない、但しの価値観の問題、両方内で協議できればよい」
 - ・「異音ではなく、彼をキレが高級経済成長などリンクしていき大前提を考えるとあり得ない」

④ 男性の意識調査の結果

回答者（外国人）からのコメント

- （女性に家庭において男性が外で働く概念について）
- ・「現時ではないが将来的だと思ふ、自分の父の代が承継しよ」
 - ・「各業種の状況による」
 - （専業主婦について）
 - ・「女性が自分のキャリアを築けないのもよくないと思ふ」

④ 男性の意識調査の結果

回答者（外国人）からのコメント

- （夫について）
- ・「男性も主夫という選択肢を自由に選べるようになってほしい」
 - ・「家族として十分な収入を得られるかがポイント」
 - ・「専業主婦で立派な選択だがイメージが嫌なので自分ほしくない」

⑤ 将来に向けて：Discussion

皆さんと一緒に考えたい

男性は社会的変化を受け入れている、家事・育児にもっと参加するべきという認識を持っている

また、日本人男性と外国人男性の間に、意識の面での差が結果として出ている

引き続き調査し、より多くの男性の声を集め、女性の意識と比較することが課題

ご清聴ありがとうございました